

令和6年5月28日

学園関係各位

学校法人 木村学園
大阪電子専門学校
理事長・学校長 木村 誠

令和5年度(2023年度)
学校法人木村学園事業報告

「昨年度状況」

令和5年度は、日本経済がコロナ禍から徐々に回復基調に入った年となりました。政府の経済刺激策や輸出の増加により、経済全体が安定的な成長を見せました。特にデジタル化やDX関連の投資が進み、これに伴い教育業界でもIT関連の教育需要が増加しました。一方で、物価上昇や人手不足などの課題もあり、教育機関においてもコスト管理や効率的な運営が求められる年でもありました。このような過酷な運営環境の中、弊学園は創立者の精神「人技両立」を堅持し、「栄えある80周年」を合言葉に、ヒト×AI×ロボット時代のプロフェッショナル育成のために全校一丸となって学園教育の改善と発展を果敢に推進しております。

「教育」

教育改善として学園で掲げるKISS構想の一環として、2023年度は教務システム導入の準備を行いました。2024年4月からは試験運用として現在利用しているシステムと併用した形で運用を開始していきます。IT・ロボット分野の各学科での教育への折込は、電気設備科ではドローン実習及び座学の実施。電子工学科では企業連携によるロボット製作実習の実施、5Gラボなど最先端技術の見学を行いAI・IT・ロボット分野の充実を図ることができました。情報エンジニア科ではAI活用実習を開始し、AIを使ってみる体験をさせることができました。また、アルゴリズムの授業を増やし、プログラミング力の強化を図った。教職員の研修については、3DCADや業界の展示会見学による最新技術動向についての研修、またラダー言語という工場システムなどの制御機器のための言語を研修を通して学び、IT分野にふさわしい学びがありました。職業実践専門課程の企業連携については、認定学科や未認定学科も含めて企業連携は実施できています。今後も連携企業を増やすため、求人票提出企業も含めて働きかけを行っていきます。教員の補充状況については、

現在引き続き求人募集は行っており、本年度の授業に向けて複数名の採用を行いました。新規採用の外部講師など、本年度の状況を確認しつつ、来年度の時間数増加なども含めて今後検討していきます。全員資格取得については、2年生に関しては、電気設備科、電子工学科、情報エンジニア科とも卒業生は全員資格取得は達成できました。1年生に関しては、電気設備科は全員資格取得できました。電子工学科に関しては、2024年3月1日に第二級陸上特殊無線技士を取得見込みです。情報エンジニア科1年に関しては80%が取得し、残りはパソコン整備士を目指します。

職業実践専門課程や修学支援制度の関係する情報公開に関しては2023年度分の実績に関しては2024年度中に公表する予定です。出前授業については2024年度も実施すべく引き続き取り組んで参ります。

「情報エンジニア科」

基本情報技術者試験を目標にカリキュラムを実施してきましたが、アルゴリズムなど主要範囲の授業を増やすことにより、2年生も基本情報取得者を増やすことができました。今後も資格対策のカリキュラムを継続して実施していきます。今年度は教員の補充もでき、体制を整えることができました。退職された教員の補填ができたので、授業も問題なく実施できています。今後は職員の特技や知識を生かした授業を導入していき、他校との差別化につなげていきます。AI教育について、今年度はAIの授業をお願いできる講師と契約ができ2年目となりました。内容も実践的で学生のスキルアップにもつながっております。またクリエイター系の学生も一部を除き希望者は全員就職することができました。就職に向けたカリキュラムも問題ないと考えます。今後は学生一人一人の課題進捗を把握し負担になっている部分を軽減できるように動いていきます。クリエイター系も日々の制作が功をなし、一部学生以外は就職することができました。学生作品の水準も例年以上となっております。カリキュラムについても、作品制作の時間とキャリアデザインの時間、ポートフォリオ制作や面接対策などを盛り込むことができ、無駄のないカリキュラムにすることができました。今後もこのカリキュラムを継続していき、全員就職を目指せる環境を維持していきます。職業実践について今年度も認可を受ける条件は達成できておりません。その現状を打破するために、コース統合のアイデアやカリキュラムの再検討などを進めています。認可が受けられるようにこれからも尽力してまいります。クリエイター系の学生については、コンペなど外部への露出を増や

しましたが、期待した成果は得られませんでした。ただ、学生も募集要項などの縛りがある中での制作を経験し、スキルアップに繋がっていると考え、今後もコンペなどの取り組みを継続していきたいと考えます。資格について、科目A免除者を対象に2年生でも資格対策の授業を実施しました。そのおかげで2年になってからも基本情報の取得者が増え、30%を超える取得率になっています。今後も合格の見込みがある学生に対して特別な講義や対策を検討し、少しでも資格取得率を上げられるようにしていきます。校内展示スペースについては、ロビーの改修工事後に適宜展示を開始しています。KISS構築の進捗として校務パッケージの導入を実施しました。これにより業務全体の効率化はもちろん、学生の出席状況や成績についての管理がすぐに見れるようになります。情報エンジニア科の考える次世代教育は、学生のレベルにあった教育を実施することになるのでネットで一括管理ができ、すぐに反映される状況に持って行けたことは大きな進捗になります。今後の方針は、運用に問題がないかの確認、学生状況の確認などができ次第学生それぞれのレベルにあった次世代教育の導入を進めていきます。昨年にネット環境、本年に校務パッケージなど学園運用の下地の部分が固まってきましたので次世代教育環境についてもようやく検討して行ける段階となりました。現在もトレンドとして挙げられるAI、AR、メタバースなどを学べるカリキュラム、そして体感できる次世代のPC教室を目標に置きます。今年度は環境の整備と次世代教育の検討までしか進捗はございません。次年度は導入に向けて動いていきます。

「電子工学科」

Arduinoを用いた搬送用ロボットを製作しプログラム制御・スイッチング制御・ジョイスティック制御による前後左右の走行を実現しました。また、無線ユニットM5 Stick plusを組み込み、スマートフォンでのIoT制御も実現しハードとソフトの両面を織り込むことができました。家電では、大型テレビや電子レンジを新たに導入し実習の充実を図りました。受講した学生からも家電製品に対するさまざまな知識・部品交換・修理について理解できたと感想もあり実践技術の習得ができた。全員資格取得、全員就職を達成しています。

「電気設備科」

全員資格取得(第2種電気工事士資格より更に難関な第一種電気工事士取得)については2年生が5名が第一種電気工事士試験合格となりました。また、筆記試験の科

目合格は2名となっています。1年生は第一種電気工事士筆記試験合格(12名)うち5名が実技試験も試験合格となりました。AI・ロボット分野の技術を学ぶことについては、2年生を対象としてドローン実習を実施しました。学生は全員スムーズにドローンの操縦を行っていました。モデルハウスの設置については建築法や設置場所、安全面を考慮し適切な場所を検討しております。実習内で天井照明器具交換実習(2年生)や石膏ボードコンセント取り付け工事实習(1・2年生)を実施し、モデルハウスの設置を代替する実践的な教育として行っています。実習については全学生が興味を持って取り組んでくれました。

職員研修としての最新技術の習得について、CAD/3DCADの担当教員が3D-CADについての研修を受講し、今後の製図関連実習のための知識を習得することができました。時間数の関係から、2023年度の実習には盛り込めなかったが、2024年度以降に活かすべくカリキュラムの改善に努めていきます。「人技両立」の「人格教育」については、救命講習や低圧電気取扱者特別教育などにより、命の大切さや非常時に他人を助ける技術を学んでいます。人格教育の一環として、社会人の常識を習得させるため、2年生保守実習において客先対応についての学習を2学期に実施しました。電気工事希望者の関西独占の目標については、すべての学生が当校に入学したわけでは無いが、相応の学生数が入学したものと考えられます。今後も引き続き、電気設備科のカリキュラム改善を図り、電気工事分野への就職を希望する学生のニーズに添えるようにしていきます。

「外国人教育」

外国人教育では、学園創立80周年に向けて、当初は2025年4月の日本語科新設を目指し、2023年10月の申請を準備してきましたが、法改正によりやむなく申請の見直しを検討しております。よって現在は、2026年4月の開校を目指し、2024年9月の事前申請に向けて鋭意進捗させております。

3月に卒業を迎えた留学生は特段のことがない限り、それぞれ本人の進路希望を達成することができました。日本語学校への訪問を強化し、多くの留学生を本校説明会へ参加させることができました。一方では、今年度より入学資格を厳格化し、留学生を厳選しました。

次年度も内定率向上のため、留学生を積極的に採用する企業を開拓していきます。

「学生指導」

校訓である「人技両立」の人格育成のため、実習や就職課の指導を通じて働くことについての指導を実施し、特段の理由がない学生以外については全員就職いたしました。プロ意識を持たせるために必要なる要素である、「責任をもって行動する」、「倫理観を持って正しい行動をする」に関して、レクリエーションや、スポーツ大会、学期末パーティー等や、就活セミナーを通じて育成を実施。またこのような各種イベントを通じて学生同士や教職員との交流を実施することができました。全員出席とはいきませんでした。スポーツ大会にはほとんどの学生が出席しておりました。今後は、少しでも学生自身が主体となって出来るようにしていきます。更にコワーキングスペースを活用し、他のクラスの学生との交流をもち、コミュニケーションの育成も出来ました。学生の健康と安全に関しては、インフルエンザやコロナウイルスにかかった学生はいましたが、学校内で広がることはありませんでした。また、健康診断の結果、再検査等はあったものの授業や就職に差し障る学生はいませんでした。更に学生のメンタルヘルス対応の為、担任をフォローする対応職員も配置いたしました。防災用品の更なる充実として、食べ物、携帯トイレ、防寒ポンチョなどの購入を検討いたしました。個数については、災害時帰宅する学生が多数いることを考え、適切な数として学生数の半数を考えております。2024年1月の能登半島地震で注文が殺到しているため、落ち着いてから購入の実施を考えております。

SDGsの推進として目標10に掲げられている人権問題と、本学におけるダイバーシティキャンパス実現の一環として、可能な限りの障がい者対応の研修へ参加し、全教職員に向けたフィードバックを実施しました。学内研修として、Youtubeを通じたLGBTQの研修を行い、ほぼ全員の教職員が受講しました。その結果、差別などの人権侵害は発生しておらず、学生達は皆仲良く学校生活を過ごしています。

「就職」

就職課では、能動的に就活することを方針にして就活指導して来ました。卒業生の95%就職達成となり、全員就職達成へあと一步に迫りました。これはコミュ力指導と面接指導を強化することで、就職困難と思われた学生3名も内定をいただいたこ

とに繋がってます。特に、情報の学生は、自分を見つけられていない学生がおり、年明けまで就活の継続を余儀なくされました。留学生は3月末まで継続することで、一応全員内定しましたが、条件付内定者の1名は辞退して、2024年5月10日に帰国いたしました。次年度は、更なる早期化を目指し、担任のサポートと学生への情報発信の強化を徹底します。

DX化につきましては、就職課ポータルサイトを運用しておりますが、未だ、学生に浸透しておらず、担任に呼びかけ等、就職課ポータルの利便性を学生へPRすることで、使用率の向上を目指します。今後は、検索機能の充実や、AIを適用することにより、全員希望先就職の早期達成を目指します。

「学生確保」

学生確保は、各種メディアを的確に使い分け、学校情報を効果的に発信しました。本校の優位性は、座学より実習をメインとした実践的な授業を行っており、大学他校との差別化を意識したPRとして実習を中心とした各学科の授業及び実習の紹介X(Twitter)やInstagramの更新頻度を上げ、これまで以上に投稿数を増加させました。Xにおいては、イラストで各学科や本校の特徴を紹介し、ユーザが興味を持って閲覧できるよう意識して投稿しました。Instagramでは、ストーリー(ショート動画)を中心に本校をより身近に感じられるよう日々の授業や学校の様子をタイムリーに投稿しました。結果InstagramからのHP流入があり、その他にもリクルート企画のOCストーリーズを更新するなどで、各媒体に合わせた柔軟なPR展開に成功しました。資料請求は昨年より増加しており本校の認知度拡大を裏付けています。ただ、費用対効果は前年度実績を上回る成果を達成できませんでした。

「総務・人事」

2023年度、総務事務では創立80周年記念事業に向けて各事業のフォローに務めてまいりました。栄えある80周年を迎えるにあたり、学園では3つのスクール構想を教職員から募り時代を支えるバックボーンとなる教職員の育成と支援を行ってまいりました。新規の校務システムを導入することで組織のIT化も一層進めております。

本学園では、4年前に新型コロナウイルス感染症が広がる初期から、新型コロナウイルス

対策委員会を発足させ、感染防止対策に取り組んできた結果校内感染ゼロを達成しました。2024年3月をもって委員会の役目を終えました。

また、学園独自の減額制度を併用して学生が安心して学業に専念できるように適切に対応して参りました。

総合校舎と教育設備については、1階の空調設備の入替、全教室のLED照明化の実施、エントランスホールのリニューアルを行いました。これから80周年に向けて、多くのエンジニアを輩出していく学園として明るく迎える準備が整っております。更に80周年に向けて、校舎施設設備の点検については安心と安全を担保できる学園として改善に努めて参ります。

今年度、物価高とともに高騰した電気・光熱費については、教職員の節電意識向上に取り組み、適切な温度調節により総使用電力は昨年比で89%を達成しています。今後も適切な経費節減に注力してまいります。人材採用については、常勤職員の中でITに特化した教員、クリエイターコースではWEBデザイン経験のある教員を1名ずつ採用し、さらにシステム担当を兼務する教員候補として1名、ドローンインストラクター1名を採用しております。今後より専門性の高い教育を常勤教職員で発展していく次世代教育体制を整えました。65歳定年退職を迎えた職員の雇用継続も行い、今後定年後の雇用に関しても長く定着し働いてゆくことのできる雇用の見直しを図ることができるように検討を行いました。

以上